湖風（うみかぜ）

NALCびわこ彦根・広報誌
第１２１号・平成２９年２月１０日
彦根市後三条町１２５（安田武雄方）
電話＆FAX０７４９・２３・２５３７
編集・発行責任者・小林　　博

抗認知症薬の副作用

１．　抗認知症薬アリセプトとは

抗認知症薬アリセプト（一般名：ﾄﾞネベジル塩酸塩）は、1999年の発売以来、日本における唯一の認知症治療薬として使われてきました。アルツハイマー病やレビー小体型認知症になると、思考や記憶に関わるアセチルコリンという神経伝達物質が減少します。アリセプトは、このアセチルコリンの分解を食い止める働きをし、脳内の認知機能障害の、進行を遅らせることができます。

２．　抗認知症薬の副作用

アリセプトは、アセチルコリンの分解酵素の働きを阻害するので、副作用は脳以外に作用し、消化器官、心臓、泌尿器気に出やすい傾向にあります。特に飲み始めた時期や薬を増量した時期に起こりやすく注意が必要です。また、怒りっぽくなり、興奮、不眠、徘徊、暴力といった神経が高ぶった精神状態になる。

３．厚労省のガイドライン

抗認知症薬（アリセプト）を服用すると暴行や暴言といった攻撃性が高まる副作用が起こることがあると平成28年9月に公表した。症例では、アルツハイマー型認知症と診断された女性（78才）はかかりつけ医から抗認知症薬を処方された。やや活気は出たが、深夜に家の中を徘徊したり暴言を吐いたりする症状が出た。かかりつけ医はガイドラインを参考にして薬を増量。すると、幻覚、暴言、怒りなどの副作用が強まった。女性は別の医療機関に転院した。薬の投与をやめると、自分で食事がとれるようになり歩けるまで回復した。さらに副作用により殺人事件を引き起こす症例もあり、使用には医師と相談し、充分注意する必要があります。　　（安田）

びわこ彦根広報板

〔１２月の活動記録〕

時間外預託点数　６点　（１人）
奉仕活動点数　　２点　（２人）

〔運営委員会・月例会〕

実施　　１月１７日（火）ＰＭ１：３０～
予定　　２月　７日（火）ＰＭ１：３０～

〔１２月度の経過報告〕

*宅老所の開催実績
おしゃべり４回２０名　パソコン０回
卓球３回１０名　　読書５人　３冊
チビッコサロン　７組１２名

〔助け合い〕　０件

〔福祉調査センターの活動〕

実施　　１月　１件（第三者）
予定　　２月　２件（外部評価）

〔連絡事項〕

・1月は17日（火）から活動を開始しました。雪の影響もありましたので、車での移動が困難なため歩いて参加して下さった方があり感謝しています。
今般の降雪は、彦根：東近江市地区に集中しており、湖北地区にあまり降っていないようです。
・ナルク会員のアンケートを2名お願いしました。
・びわこ彦根の広報誌12月号とナルクの広報誌12月号・1月号を発送しました。